

1. 平成29年度活動記録・実績

(1) 活動記録

- | | | | | |
|---|--|--|---|---|
| ● 第1回（3/15（水）） <ul style="list-style-type: none">意見交換会の趣旨等説明 | ● 第2回（6/13（火）） <ul style="list-style-type: none">地域コミュニティづくりにおける人材育成コミュニティビジネスの各地域での創造・発展の促進等について意見交換を実施 | ● 第3回（9/20（水）） <ul style="list-style-type: none">震災10年(2021.4)にあるべきソーシャルセクター像ソーシャルセクターの構築・強化のための連携型交流会等について意見交換を実施 | ● 第4回（11/13（月）） <ul style="list-style-type: none">地域づくりハンズオン支援事業（東北における事業型NPOのビジョン策定）連携型交流会等について意見交換を実施 | ● 第5回（3/15（木）） <ul style="list-style-type: none">連携型交流会in宮城 NEW TOHOKU PITCH Vol.0の実施状況来年度意見交換会等について意見交換を実施 |
|---|--|--|---|---|

(2) 連携型交流会 in 宮城 概要

「NEW TOHOKU PITCH Vol.0」

（平成30年1月31日（水）/TKPガーデンシティ仙台勾当台カンファレンス2）

- キーノートスピーチ
「ソーシャルセクターの全国的動向と事例」
株式会社オルタナ代表取締役社長／オルタナ編集長 森摂氏
- ピッチプレゼンテーション
 - ・ 特定非営利活動法人移動支援Rera
 - ・ 3.11メモリアルネットワーク
 - ・ スタンドアップ亘理
- パネルディスカッション

「新しい東北」官民連携推進協議会 連携型交流会in宮城

NEW | ニュー TOHOKU | トウホク PITCH | ピッチ Vol.0

2018.1.31 (Wed) TKPガーデンシティ 仙台勾当台 カンファレンス2

事前申込制
どなたでもご参加頂けます

開催主旨
震災から7年が経過しますが、「新しい東北」の創出に向けて解決すべき地域の課題は未だ多くあります。行政や企業、NPOや大学、金融機関など、様々な担い手の協働による課題解決のさらなる促進や関係性の構築をめざし、「新しい東北」の創出に取り組む事業型NPOのピッチイベント及び交流会を開催します。

ピッチイベントとは？
自社の持つビジネスモデルやサービス、構想等のショートプレゼンとプレゼンに対するゲストやオーディエンスとのディスカッションを行い、認知度の向上やネットワークの拡大、ビジネスパートナーやユーザーの獲得等を通し、より良いビジネスモデルを目指すイベントです。
本企画では、ソーシャルセクターによる「新しい東北」の創出に向けたビジネスモデルやサービス、構想等を範囲とし、開催します。

2. 平成30年度活動の方向性

- 意見交換会の目的を、復興庁事業の各メンバーへの紹介、メンバー間での情報共有を行うことで、情報共有・課題解決の窓口としての取組と位置づける。
- メンバーによる「新しい東北」官民連携推進協議会の週次の交流の場（Fw:東北Weekly）への関与等を行い、具体の課題解決の実践を通じた課題解決に向けた連携の事例を創出する。

第1回（6月）

- 今年度の各メンバーの活動の紹介
- 今年度議論するテーマの決定
- Fw:東北Weeklyに向けた今後の進め方の整理

第2回（9～11月）（予定）

- 各メンバーの最近の活動の紹介
- テーマについての議論
- Fw:東北Weeklyの設計

Fw:東北Weeklyの実施

「新しい東北」交流会での活動状況紹介

第3回（1～3月）（予定）

- 各メンバーの最近の活動の紹介
- テーマについての議論（Fw:東北Weeklyの振り返りを含む。）
- 次年度の活動方針の議論

※ 議論の状況に応じ、各回の間には事務局からの連絡、意見交換会の追加の可能性はある。

3. 平成30年度のテーマ案

●昨年度報告書の提案

- 平成29年度第5回の意見交換会においては、「NEW TOHOKU PITCH Vol.0」の開催を踏まえ、平成30年度の意見交換会のテーマについて、以下のような意見が寄せられた。
- 平成30年度第1回の意見交換会においては、下記の提案を含め、平成30年度で扱う課題を議論、決定する。

<提起された課題>

①実行力の不足	②自治体職員の参加のハードル	③現地や住民との関係性	④地域間の温度差	⑤セクター間の交流・連携不足
<ul style="list-style-type: none">✓ 地域で活動している人は本業を抱えている人も多く、マンパワーが足りない。共感できる人を増やす必要がある。✓ 地域で活動したい思いがあっても、場やファシリテーターの不在という壁がある。	<ul style="list-style-type: none">✓ 基礎自治体の方はイベントを開催してもなかなか出てきてくれない（来られない）。	<ul style="list-style-type: none">✓ 複数回にわたり、自治体職員と住民がフラットにできる場を開催することが重要。✓ 現地に絞った取組を行うのであれば、現地の人と共に、現地の人ができることをディスカッションして企画していく必要がある。	<ul style="list-style-type: none">✓ 仙台と沿岸部の温度差を解消する必要がある。	<ul style="list-style-type: none">✓ 一地域においても、たとえば商工会とNPOがお互いのことを知らないといった現状がある。

<提起された提案>

- 自治体職員と住民がフラットに議論できる場を継続して行う。
- 沿岸市町村対象の移動手段に関係したイベントを行う。
- 高校生など若者に地域に関わってもらえる取組を行う。
- 現地にメンバーが赴き、商工会、NPOなどのキーマンとゆるく議論する。

3. 平成30年度のテーマ案

(1) 昨年度実施「NEW TOHOKU PITCH Vol.0」の振り返り

下記の開催趣旨のもと実施した場について改めて振り返る。

開催趣旨（開催パンフレットより）

- 課題解決の促進と関係性構築
- ✓ 行政や企業、NPOや大学、金融機関など、様々な担い手の協働による課題解決のさらなる促進や関係性の構築を目指し、「新しい東北」の創出に取り組むNPOのピッチイベント及び交流会を開催。

平成30年度の活動イメージを描くための検討事項

▼ 開催の意義を振り返る

- ・当初の課題認識とゴールイメージをどう想定していたか
- ・実際に得られた成果（意図した参加者や関係を得られたか等）
- ・継続への課題について

▼ 今後の展望として含めたい視点やポイント

- ・何を成果として期待するか
- ・そのための手段や構成について

(2) セクター間の連携イメージについて

上記振り返りを踏まえ、各セクターの役割および連携のイメージを共有する。

平成30年度の活動イメージを描くための検討事項

▼ 連携を促進すべき分野と地域

- ・連携の組み合わせとその対象分野 例：NPOと地元企業、NPOと大企業CSR、その他
- ・連携促進に適した沿岸地域 例：石巻、気仙沼、女川、南三陸 etc.

▼ すでにある取り組みの共有

- ・「ゆる協（中小機構主催）」「結の場（復興庁主催）」など

3. 平成30年度のテーマ案

(3) 今年度のテーマを決める

▼ テーマと成果について

- ・テーマ・目的の設定（本意見交換会で立てる「問い」を定める）
- ・成果の設定（何が達成できればよいか）

▼ 実施メニューを決める

- ・ Fw:東北Weeklyの活用
 - a. アイデアソン、セミナー、シンポジウムなどの形式
 - b. 東京開催か県内開催か
- ・ 次回以降の意見交換会に参加を要請すべきセクター、団体等

「NEW TOHOKU PITCH Vol.1」の開催に向けた検討事項

▼ 対象とする地域と分野

- ・ 対象とする分野
- ・ 対象とする地域
 - a. 沿岸地域
 - b. 仙台
 - c. 内陸部
 - b. 県全域
 - d. その他

▼ 実施概要

- ・ 実施時期と準備期間
- ・ 実施体制

▼ コンセプトのイメージ

- ・ 他の取り組みとの調整、連携
- ・ 継続性の有無の確認

▼ 協議会会員の参画

- ・ 会員間の連携促進への活用
- ・ 実施側、参加者側双方の可能性について